ESD推進ネットワーク全国フォーラム2021　セッション3

分科会①「学び合いプロジェクト」

テーマ「脱炭素社会づくりとESD」 ～気候変動教育と、拠点の学び合い～
（北海道、近畿）

2021年度近畿地方ESD活動支援センター分科会
「ESD for 2030学び合いプロジェクト」概要報告

講師・奈良教育大学　中澤静男

分科会テーマ
「脱炭素型ライフスタイルを促す
ESD学習プログラムの向上」

【分科会のねらい】
・講師等を交えた参加者同士の学び合い
・学習者の「気づき」「感動」「探究の欲求」が得られるようにESD学習プログラムの質を高める

教材
※京エコロジーセンター（京都市環境保全活動センター）に来館する中学生を対象とした「脱炭素型ライフスタイルを促す ESD 学習プログラム」をモデル的に創出する（改善する）ことを目的に学び合う。

参加者について

19名

①多様な参加者による、多面的な意見交流
②プログラムを提供する側と利用する側による双方向的な意見交流
③学び合う意欲が高まった（0.5回を2回、ツアーを1回、追加開催）

参加者の所属	人数（人）
地域ESD推進拠点	2名
推進拠点以外の社会教育施設	5名
自治体	1名
NPO	3名
企業	1名
学校教員	5名
研究者	1名
大学生	1名

スタッフについて

10名

スタッフも意見交流に積極的に参加。

所属・役割	人数（人）
講師（研究者）	1名
実践者（京エコロジーセンター）	2名
情報提供者	2名
近畿地方環境事務所　環境対策課	2名
近畿地方ESD活動支援センター	3名

分科会活動の構成

- 参考事例
  奈良教育大学・近畿ESDコンソーシアムによるESD
  ティーチャープログラム（全5回）
  ①SDGsの理解促進、②ESDの学習理論の理解
  ③ESD優良実践事例の分析
  ④単元構想案の相互検討、⑤学習指導案の相互検討

第1回　7月27日（13:30～15:30）オンラインで実施
・情報提供「脱炭素社会の実現に向け、ESDを通して考える実践について」
（講師：環境省近畿地方環境事務所環境対策課長福嶋慶三氏）
・交流活動「SDGs達成に向けたESDに関する理解促進」
（講師：奈良教育大学准教授中澤静男氏）

第2回　8月3日(10:00～12:00)オンラインで実施
・話題提供「対話や学びを深める問づくり方講座～SDGsを自分ゴトするための要素とは？」(講師:こども国連環境会議推進協会事務局長井澤友郭氏)
・話題提供「地域資源を活かして学校と連携した実践事例の紹介」
(講師:森と水の源流館／ 公益財団法人吉野川紀の川源流物語事務局長尾上忠大氏)
・グループワーク・意見交流会

第2.5回　8月17日(10:00～11:30)オンラインで実施
・意見交流活動(これまでの学びに関して)
・情報提供「子どもの学び方の特徴について」(講師:中澤静男氏)
・参加者の活動紹介(トモーニー:金本秀勝氏)
・グループワーク・意見交流会

第3回　8月24日(10:00～12:00)オンラインで実施
・振り返り「2.5回の学びの到達点」(講師:中澤静男氏)
・実践者(京エコロジーセンター)からの学習プログラムの提案
・学習プログラムに関する参加者意見交流(指導助言:中澤静男氏)

第4回　9月18日(10:00～12:00)オンラインで開催
・実践者によるプログラムの再提案と意見交換
・参加者の活動紹介(さすてな京都:清水美沙氏・井上竜馬氏)
・参加者の活動紹介(いけだエコスタッフ:庄田佳保里氏)
・グループワーク・意見交流

第4.5回　10月15日(16:00～17:30)オンラインで実施
・参加者の活動紹介(奈良町資料館:南哲朗氏)
・参加者の活動紹介(滋賀県地球温暖化防止活動推進センター:来田博美氏)
・グループワーク・意見交流

ESD学習プログラムの試行　11月3日(10:30～11:30)
参加者数:中学生5人+15人(定員15名設定)
京エコロジーセンターで実施
対象:奈良教育大学ユネスコクラブ　5名
実践者:石田浩基氏(京エコリジーセンター)

参加者による現地ツアー・ミーティング　11月14日(15:00～17:30)
会場:トモーニー
・プログラム提供で留意するポイントについて意見交流
・利用する側からの希望など、意見交流

第5回　11月20日(10:00～12:30)オンラインで実施
・実践者によるESDプログラム試行の報告と参観者からの振り返り
・参加者の活動紹介(ウェルネスインバウンド協会:井辻敦雄氏)
・参加者の活動紹介(川崎市地球温暖化防止活動推進員:竹井斉氏)
・グループワーク・意見交流

分科会活動での学び　１

ESDは学習者の価値観と行動の変革を促す学びである。

(1)プログラム構成に関する気づき

・これまでの展示や説明は「説明・納得型」であった。「説明・納得型」では、知識は増えても行動変容には至らない。

行動変容をもたらすもの　認知的葛藤・あこがれ・発見

・発問により「当事者意識（自分との関連）」を持たせる

・学校の教員は発問と対話（意見交流）で授業を構想している。

①中心発問、②深める発問、③行動化を促す発問

「あなたは、いつから、何をしますか？」

分科会活動での学び　２

（２）学習者の相互交流の重要性

・これまでは、すぐに答えを与えてしまっていた。

・学習者を信じて、意見交流から気づきを促す

　相互交流の価値

　学びの深まり（深い学びへ）、新たな視点・考え方の発見

　学びの共同体意識による学ぶ意欲の向上

（３）振り返りの言語化の重要性

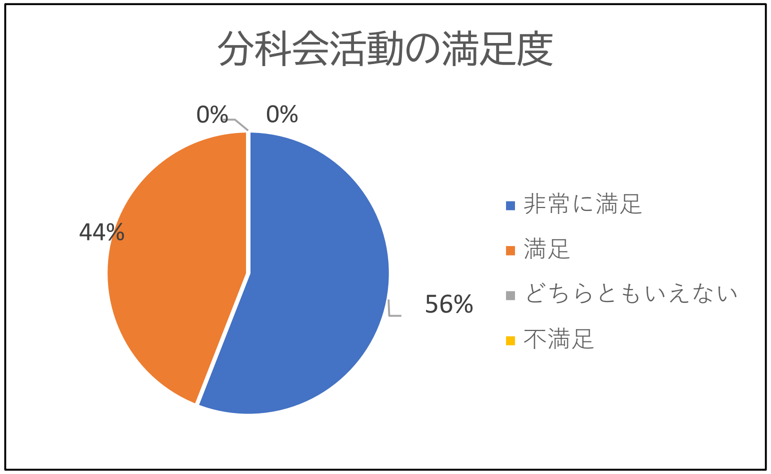
　書く活動が学びの定着につながる

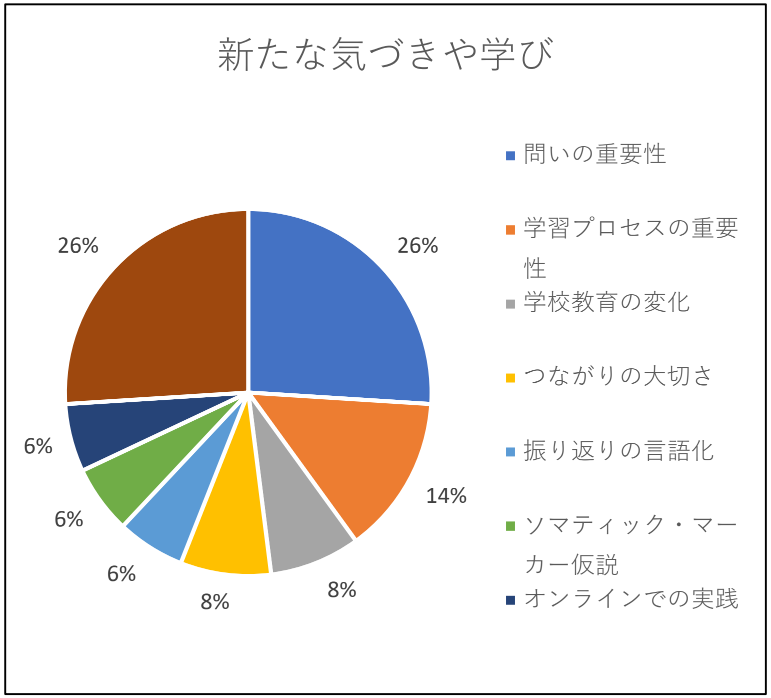
（４）スタッフと学習者の対話での留意点

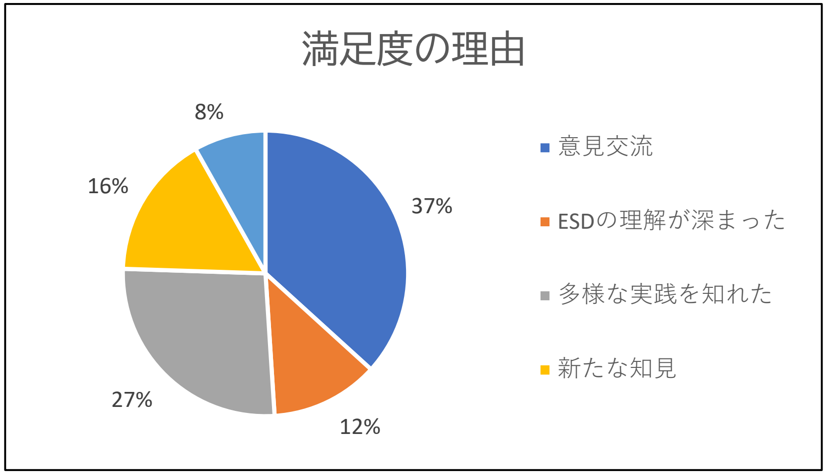
・知識（情報）だけでなく「熱」を伝える（スタッフ自身が教材）

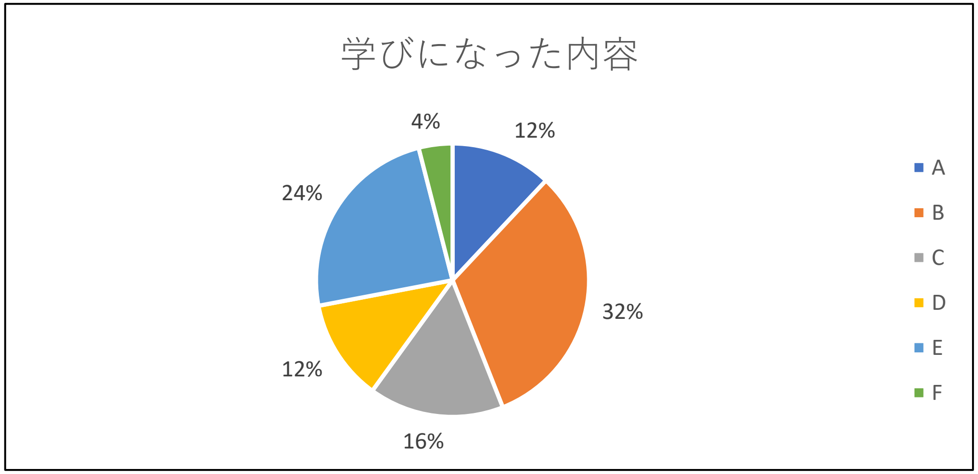
　あこがれが行動化を促す契機となる

参加者アンケート









A:脱炭素社会が必要とされる現状についての理解
B:説明より問いを投げかけることの大切さ
C:自分事化するための振り返りの大切さ
D:行動化を促すための問いの重要性
E:学習者同士の意見交流の大切さ
F:その他（自由記述）

まとめ

- 本分科会活動の参加者にとって、大きな収穫は「問い」の重要性と学習者同士の学び合いの大切さ。
- 社会教育施設側の参加者は、「問い」のワークショップでの学びと学校教員が3つの発問を中心に子どもの反応を想定して授業を構想しているという意見から、自らの展示やプログラムの再考を感じていた。

※京エコロジーセンターのESD学習プログラムが意見交流によって、課題を自分事化するための「問い」で始まり、学習者相互の意見交換の場を設定するとともに、行動化を促す「問い」で締めくくるプログラムに変更された。

- 学校教員側にとっても、学校教育の独自性とその効果に気づくこととなり、質の高い「発問」の重要性に気づかされることとなった。